
八重桜

紅満 絢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

八重桜

【Nコード】

N2591I

【作者名】

紅満 絢

【あらすじ】

付き合い始めて一年目の春

二人で桜を見に行った先での出来事…

「わぁ…銀さん見て」

「ん？」

そう言っ て彼女の指差す方向を見る

そこには…

「八重桜だよー キレー可愛いー！！ね、銀さん」

「お、おっ…」

満開の八重桜

まさかこいつに風流の心があったとはな

とは口に出さずに胸にしまっておこう

こいつ怒ると怖エから

そんなこと思いながら桜の木の枝に手をかける

すると彼女も羨ましげにこちらを見つめ、手を伸ばすが…

彼女の身長じゃ届くわけもない。

自分自身それに気がついてあわてて、でも何事もなかったかのように手を引っ込める

そんな彼女の姿に、俺は心なしか笑っていた

．．．．。

．．．．．。

この桜の木を見てすこしボーっとする

不思議に思ったのか、彼女も俺の顔を覗き込んでくる

「銀さんどーしたの？ボーっとして」

「いや、何でもねエ…」

そう返事をしが、突然吹いた強風とともに声がかき消される

「あ ごめん聞こえなかった」

「マジでか」

そう言って笑う

彼女も笑う

「…綺麗に咲いてやがるな」

そう言って木を見上げると、たくさんの桜が風に流れてる

そしてその中でも一番綺麗なのを見つけ手でつかみ、その華を彼女の髪にそっと結いつける

「買ってやれねー簪代わり。　やっぱ似合うな」

その一言で彼女の頬が桃色に染まる

「どーした？照れてんのか？」

少し意地悪な台詞。

彼女は―…

「そんなんじゃない…」

真っ赤に赤面しながらも、否定。

この意地っ張りが

「でも…ありがとう」

「ああ…」

返事をまだ言い終えないうちに3回目の強い春風が吹く

風のせいでバランスを崩し、二人ともその場に倒れこむ

「いつてエー…ん？」

不意に上を向く

そこには

さっきの強い風でさらに散ってゆく桜の花びら

「わぁ・・・」

彼女は隣で寝転びながら感動の唸りを上げている

「…なあ」

「ん？何？」

「守るモンがあるから人は強くなれるんだろうな」

「うん…？どうしたの？突然…」

「いや、なんでも…」

すると彼女は何かを悟ったように

「銀さんは、昔は仲間を護っていたんだよね」

「…」

答えることが

できない

しかし彼女は

「そんで今は、新八君とか神楽ちゃんとか…ちゃんと護るべきものがあるんだよね」

「…」

護るべきもの…ねエ…

「んじゃ、お前さえいれば俺はもう道を間違えねーかもな」

一言呟いてふっと彼女のほうを見れば

彼女の目から涙がこぼれる

そして苦笑う

「そ？方向音痴のくせに」

そして彼女の予想外の言葉に俺も一緒に笑う

春の風が吹き荒れて

桜の花びらが青い空を舞う

一面緑広がる野原に寝転んで、
気持ちの良い風を感じられる

そんな春が、きていた。

（後書き）

甘甘で書いてみたんですけど…

完成度低いなオイ↑

自分の才能のなさにむしろ笑えてきますよ…Orz

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2591i/>

八重桜

2010年10月10日23時45分発行